

要 旨

令和2年度に春野町諸木地区の代表の方から、地区内にある巖島神社の社の改修の依頼があった。社の改修は、生徒の技術力向上はもちろんのこと、地域貢献や地域交流の観点からも非常に魅力的な題材であり、令和3年度から始めて令和5年度に完成させる予定で引き受ける運びとなった。

主な作業は、現場作業班、模型製作班、図面作成班に分かれて行った。現場作業では、土台の交換や屋根の解体を行い、屋根のこけら葺きでは、動画などを見て作り方を調べた。模型の製作や図面の作成では、社の形に似た図面を調べ、部材の名称や作り方をまねた。すべての工程が教科書や実習では体験できない内容であり、大変貴重な経験を積むことができた。



製作にあたり

社は、1669年（寛文9年）10月23日に完成し、神社を招く儀式として神降ろしが行われた。それから1928年（昭和3年）に入り口の鳥居が改修され、1938年（昭和13年）に屋外にあった社は現在の屋内に移行された。



現場調査

実際に現場に行き、社の状況や構造を調べた。同時に模型製作のため、社の寸法を土台など大きい材から細部の細かいところまで測定を行った。

調査の結果、社は経年劣化による損傷が激しく、特に土台や基礎が腐朽し、いかにも崩れてきそうであり、直ちに応急処置をする必要があった。



解体作業

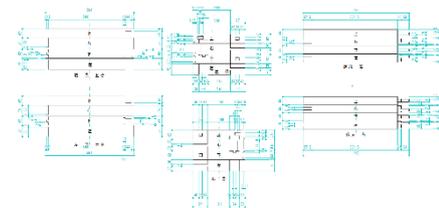
・土台交換

ジャッキを用いて腐朽していた土台の材を新しい材と交換した。交換する際に、倒壊に注意し、建物の重心を考慮しながら作業した。周りとの連携が必要な作業だったので、コミュニケーションをとり、細心の注意を払い、作業を行った。



・屋根

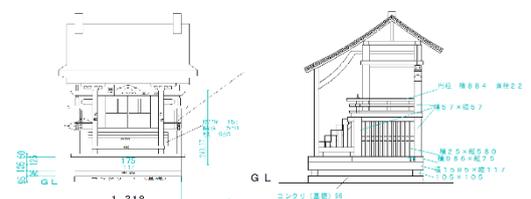
屋根の最頂部の横架材から順番にこけら板、垂木を外した。最後に残った母屋などの細かい材を外した。



図面化

現場でおおまかな寸法（柱間、開口部高さ、天井高さなど）を測り、それをもとにCADを使用し平面図・立面図等を作成した。

現場の進行状況が週ごとに変わるので、それに伴い図面作成も調整した。



模型製作

現場で測った寸法やCADで起こした図面をもとに実際の社の大きさの5分の1スケールで模型を製作した。装飾部分や屋根の緩やかな曲線の表現が難しかった。



土台アンカーボルトとめ

土台に穴を空けてアンカーボルトを差し込み、土台とアンカーボルトを止め固定した。



竹釘製作

竹釘の市販品は1升で4万円程度と高価だったので製作することにした。

竹を3cm単位で切り、先端を斜めに切り、先をとがらせ、切った竹をフライパンで焼き強度を出した。これを約6,000本製作した。



こけら板

杉材を3mmにひき割り、屋根葺き材とした。これを上記の竹釘で止めつけた。

浜床

朽ち果てていた浜床組付け。



軒先・けらば

新たに製作・組付け。



屋根葺き等

こけら板・細部の細工を仕上げ、修復を完了した。令和5年1月10日に落成式を行い、高知新聞にも掲載していただいた。(令和5年1月12日朝刊)

